



三月九日(日)、岩代支所の二階大ホールで、「おじさん図鑑宣言」採択式が行われました。日頃からマスコミを賑わせている「岩代おじさん」の代表と愛知県三河地方からの「三河おじさん」代表が結集し、力強く宣言が行われた様子を紹介します。

「おじさん図鑑」の聖地として岩代から世界へ決意表明！三河おじさんから賛同表明も行われました。

かわら版

集落支援員だより



▲岩代観光協会が世界へ向けて、「おじさん」という存在を通じて地域の魅力を発信することを宣言。愛知県三河地方からもおじさんが集い、賛同表明が行われました。

「三河おじさん図鑑」とは？

今年1月～「三河おじさん図鑑」が三河のケーブルテレビで放映されWEB版もスタート。制作元は愛知県刈谷市に本社を置くケーブルテレビ会社、(株)キャッチネットワーク。『岩代おじさん図鑑』に感銘を受けた同社の社員が岩代まで足を運び、提携が実現しました。毎月2人のおじさんを紹介しています。



▲インスタ登録はこちらから

岩代おじさん代表として三浦勝真さんが宣言を読み上げ、地域おこし協力隊員の有野真由美さんが英訳を読み上げました。さらに愛知県から駆けつけた三河おじさん達も二カ国語で賛同を表明。宣言後は、テレビ局や新聞社による取材や記念撮影が行われました。



▲東西の名物おじさん達が結集！

この日、岩代おじさん代表として三浦勝真さんが宣言を読み上げ、地域おこし協力隊員の有野真由美さんが英訳を読み上げました。さらに愛知県から駆けつけた三河おじさん達も二カ国語で賛同を表明。宣言後は、テレビ局や新聞社による取材や記念撮影が行われました。

岩代から人々の絆を深め、世界平和への一歩を踏み出したい。「地域は人でできている」というコンセプトのもと、岩代観光協会が主催した「おじさん図鑑宣言」採択式。

～地域は人でできている～

“おじさん図鑑”宣言

OJISAN-ZUKAN Declaration

我々、岩代観光協会は、「日本の過疎地最先端」として、愛すべきおじさんをリスペクトし、その個体の魅力やレベル、出没地などを広く発信し、希薄になりつつある人と人との関係を、パンチの効いた忘れられぬ関係にいざなうべく、以下のとおり宣言します。

- 1 我々は、おじさんの存在を通じて地域の魅力を高め、人々の交流を促進します。
- 2 我々は、この宣言の精神を広く共有し、賛同する団体や個人との協力関係を築いていきます。
- 3 我々は、この宣言を通じて人々の絆を深め、世界平和への小さな一歩を踏み出すことを誓います。

2025年3月9日
“日本の過疎地最先端”
岩代観光協会



▲岩代おじさんレジendent 三浦のレベル85三浦勝真さんと岩代おじさん図鑑を世に送り出した有野真由美さんが高らかに宣言しました。

▲キャッチネットワークのプロデューサーの山口さくらさんと三河おじさんレベル69の貝殻博士、黒野真澄さんが熱い気持ちを込めて賛同表明しました。



地域おこし協力隊員

有野真由美さんからのメッセージ

岩代ファンとして今後も応援します。
岩代に栄光あれ！



▲3月末に卒業する有野真由美さん

私の活動には目標が2つありました。
①岩代ファン(関係人口)を増やす。
②外の人を呼び込み地域経済に寄与する。
活動中、全国から多くの共感や激励をいただきました。道半ばの任期終了ですが、お世話になった皆様から感謝申し上げます。

“おじさん図鑑”宣言 賛同表明

OJISAN-ZUKAN
Statement of support

(一部抜粋した賛同表明は以下の通りです)

我々、株式会社キャッチネットワークは、岩代観光協会が手がける「岩代おじさん図鑑」と運命的な出会いを果たしました。そこには、ただの「おじさん」ではなく、地域に根を張り、独自の魅力と味わい深い人生哲学を持つ愛すべき存在たちが輝いていました。

そこで、我々は岩代観光協会が掲げる「おじさん図鑑宣言」に全力で賛同します。そして、この精神をしっかりと受け継ぎ、三河にも新たな歴史を刻む「三河おじさん図鑑」を誕生させることを、ここに力強く誓います。

地域の魅力は人にあり！さあ、地域の魅力を「おじさん」というフィルターを通じて、もっと面白く、もっと奥深く、もっと愛されるものにしていきましょう！

2025年3月9日
「三河おじさん図鑑」制作
株式会社キャッチネットワーク

I Love Iwashiro ⑳
成田・ハナモモロード

岩代を愛する人がお勧めする魅力スポットを紹介。二七回目は成田の澤田さんご夫妻です。

成田字北ノ内在住の澤田さんご夫妻は、家の前を通る県道沿いに咲く二百本以上のハナモモの手入れをし、道行く人の目を楽しませてくれています。

「数年前、広瀬の知人宅を訪問した際にハナモモが咲いている春景色に感動したのがきっかけです。『三年で咲くから種を播いてみたら?』とその知人が種をもってきてくれたのですが、本当にすくすく育って三年で花を咲かせました」と久紀さん。実は県道沿いに植えられているのはハナモモだけではありません。



▲4月頃、小浜から本宮への県道がピンクに染まります。

◆紹介者◆

成田在住
澤田久紀さん
喜江子さん



「バイパス開通に伴い家の前の道路が広がり、殺風景なので植栽を始めました。ドライブや散歩をしながら花の道を楽しんでいただくと嬉しいです」

せん。春は水仙や菜の花、チューリップ、六月から初夏にかけてアジサイやヘメロカリス、カンナ等が浴道を彩ります。久紀さんは若い頃から花が大好き。「薄給の頃も千円以上もする苗を買ってきて庭に植えていました」と喜江子さん。そんなときには、「私は花より団子」とよく冗談を言って笑ったそうです。現在、澤田さん夫妻は共に八十二歳。約二十年前に始めた植栽作業を今も継続しています。「花を植えるのは簡単ですが、草刈りや植え替えなどの維持管理が大変。でも『きれいだね』と喜んでもらえることが一番の励みになっています。今後もふたりで体力の続く限り続けていきたいです」。



▲初夏にかけてアジサイやヘメロカリスも咲き誇ります。

岩代の歴史シリーズ (最終回)
一枚の写真 その①

岩代小浜の歴史と文化を護る会
副会長 大内英克

「岩代小浜の歴史と文化を護る会」を設立し、「みしらず柿の里帰り事業」「郷土の偉人渡辺閑哉翁講演会」「小浜町大火火防督励」「地域の道標や史跡記念碑等の修復」「パンフレットの作成」「小浜城からの狼煙」、そして「小浜城周辺の樹木伐採による景観整備・環境保全」、「塩の道」の踏破、整備」、小浜小・中学校の「地域を知る授業の講師」などを行って新聞を賑わすなど、小浜の歴史と文化の継承に取り組んできた。小浜城周辺の除草は年間を通しての日課となっている。

これらは、小さなころから祖父に教えられていた小浜の歴史、宮森顕彰会との交流などにより、

小浜の歴史を後世に伝えることへの使命感が生まれたことによるものだと思っている。小さい時に受けた衝撃は、その後の人生に大きくかわることが多いと聞いたことがあるが、今行っている活動はまさに、あの「一枚の写真」から始まったといっても過言ではない。



▲筆者の活動の原点となった「一枚の写真」

～さよならタッピー会～

安達東校舎閉校舎式が開催

去る2月27日、二本松実業高校安達東校舎において閉校舎式が開催されました。参加者は安達東校舎の最後の3年生20名と保護者の皆さん、安達東校舎となった過去3年間に生徒さんと関わりのあった岩代地域の団体・グループ等の代表者等。農業クラブ、家庭クラブによる発表会では、3年間の活動の軌跡を思い出の映像とともに紹介。手話をまじえた合唱やショートムービー、安達東高校創立から52年間の歴史をまとめたスライド上映等が行われました。

最後に500発の打ち上げ花火が夜空を彩り、盛大なフィナーレとなりました。



上・右：生徒さんと一緒に記念撮影が行われ、その後、校庭で打ち上げ花火が上げられました。「3年間ありがとう」など生徒さん一人一人から感謝のメッセージが発表され、校歌をBGMに大輪の花火が夜空を彩りました。